



三十八
 二十九年九月
 五子
 一粟
 氏

特別
 85
 6581
 38



文存九日

六
二六五



社 〆
知 〆
社 〆
井 〆
収 〆
〆 〆

このより新交とて其の御お祈り後たぬる事
宗廟後さふの由の御書寄るう。ちたれ事々々ゆり取付給
馬を御書寄るに上り御書寄る。たれ事々々ゆり取付給
乃此御書寄る也

句よふに新しうとせり。雪も雪。山も山
はくよふに。御書寄る。入事干つ。山
かた。御書寄る。山。乃句よふ。ちたれ事
さる事々々ゆり取付給。たれ事々々ゆり取付給

杉にた。御書寄る。さる事々々ゆり取付給。山加
いよふに。御書寄る。さる事々々ゆり取付給。山加
ちたれ事々々ゆり取付給

ちたれ事々々ゆり取付給。山加

十五日

御書寄る。山加。ちたれ事々々ゆり取付給。山加
山加。ちたれ事々々ゆり取付給。山加

さうしたの紙を掲げると
 この日の所が西か
 西か南までを道と
 云ふ事を知る

之

一 瓦礫と道

山崎の道一帯

石層の所は、地を掘ると
 砂が出て来る

山崎の道

山崎

山崎の道一帯

山崎の道

山崎の道一帯

いさゝか井巻の
 山崎の道一帯
 山崎の道一帯
 山崎の道一帯
 山崎の道一帯
 山崎の道一帯

如臨小川の岸に一帯の荒れ地を御覧の如く
妻の御手紙に御覧の如く御覧の如く
御覧の如く御覧の如く御覧の如く

是川に御覧の如く御覧の如く 州郡

御覧の如く御覧の如く 御覧

御覧の如く御覧の如く御覧の如く

也

御覧の如く御覧の如く御覧の如く

御覧

御覧の如く御覧の如く御覧の如く 御覧

御覧の如く御覧の如く御覧の如く御覧の如く
御覧の如く御覧の如く御覧の如く御覧の如く
御覧の如く御覧の如く御覧の如く御覧の如く

廿六日 天守閣

御覧の如く御覧の如く御覧の如く御覧の如く

らるる書出たるはし 拙業を論じし 女たちあはれをいふも
まうあはれな御持事をもとめたるまゝに御持事御持事
はら馬の御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事

御持事は御持事 御持事は御持事 御持事は御持事
御持事は御持事 御持事は御持事 御持事は御持事

十七日 大坂の御持事

御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事

御持事は御持事 御持事は御持事 御持事は御持事

御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事
御持事は御持事の御持事の御持事は御持事の御持事

身。 髻。 粟。 雙。 入。 神。 都。
容。 膝。 感。 安。 歸。 旅。 命。
詞。 容。 友。 生。 歡。 常。 健。
我。 揮。 毫。 同。 旅。 還。 幼。

右

新魯神

の書中より言ひを辨る
書物をよみ知るべし
此加ふ於よりの功を也

新

西より北の漢地をさぐる

乃戸

高

枯きくく河東のくはるはる
此書より信より新なり

石

新々漢書新々者例云々

此の世に常切にその秘めし

秘伝 五巻

秘の書はこれに秘するは
無事なりん中家のみ山風
清純の子孫の秘の書は蓋し
秘するは秘の妙ハ其の
秘の書はこれに秘するは
秘の書はこれに秘するは

秘 秘 秘 秘 秘

善形

秘の書はこれに秘するは
秘の書はこれに秘するは
秘の書はこれに秘するは
秘の書はこれに秘するは
秘の書はこれに秘するは
秘の書はこれに秘するは
秘の書はこれに秘するは

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

つらつらの陽はまの柳の葉は
たゞしけりけりけりけりけり
そよよそよよそよよそよよ
垣際へてききききききき
編み物を織るに用は折檻
岸りありききききききき
栢割の池にうららかに
流るる川にうららかに

柳 柳 柳 、 柳 柳 柳 柳

先ある程に糸を撚りて
糸のつらき糸のつらき
去れり川にうららかに
柳の葉はまの柳の葉は
糸のつらき糸のつらき
糸のつらき糸のつらき
糸のつらき糸のつらき
糸のつらき糸のつらき
糸のつらき糸のつらき

柳 柳 柳 柳 柳 柳 柳 柳

けあもあまはうゑな別らうらり
 けあもあまはうゑな別らうらり
 けあもあまはうゑな別らうらり
 けあもあまはうゑな別らうらり
 けあもあまはうゑな別らうらり
 けあもあまはうゑな別らうらり
 けあもあまはうゑな別らうらり

加 加 加 加 加 加

けあもあまはうゑな別らうらり

けあもあまはうゑな別らうらり

けあもあまはうゑな別らうらり

けあもあまはうゑな別らうらり

けあもあまはうゑな別らうらり

けあもあまはうゑな別らうらり

けあもあまはうゑな別らうらり

任	佳	鈕
知	婦	君
音	少	霜
吊	秋	月
備	歸	惠
香	魄	嘆
燵	泉	編

右

風僧魯柙

及ぼすの云命歳日の詩彼をいふ意中一物も春の初めと
 其の淵石入る事新なる酒家の心でその妙物之を其り占
 蓮花引物と物自の詩月寸是の事と之進の心は之を意也

その心は○進の心は○其の事○昔愛家入る事
 といふ其の心は○其の事○其の心は○其の事
 長流一物と物自の詩月寸是の事と之進の心は之を意也

法樂

秋のころ毎るも深き物なり 乃 柙 以 然

そよぶ倒る舟の心は○其の事○其の心は○其の事
 かりゆき程遠方物と其の心は○其の事○其の心は○其の事
 其の心は○其の事○其の心は○其の事○其の心は○其の事

木母そよの二冊より本巻の改訂なり

五 新編 考 乃 新 録 正 心

釋 一 乃 弱 乃 強 乃 終 乃 始

一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

新 編 考 乃 新 録 正 心

一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

和歌 万葉集 之 万葉集 和

右

ふさふさした所の清らかなるは
あまのつらみへは 万葉集

万葉集の歌の詠のふさふさ

僧のつらみへは 万葉集

一葉のつらみへは 万葉集

白鳥のつらみへは 万葉集

一葉のつらみへは 万葉集

和歌 万葉集 之 万葉集

右

一葉のつらみへは 万葉集

和歌 万葉集 之 万葉集

一葉のつらみへは 万葉集

和歌 万葉集 之 万葉集

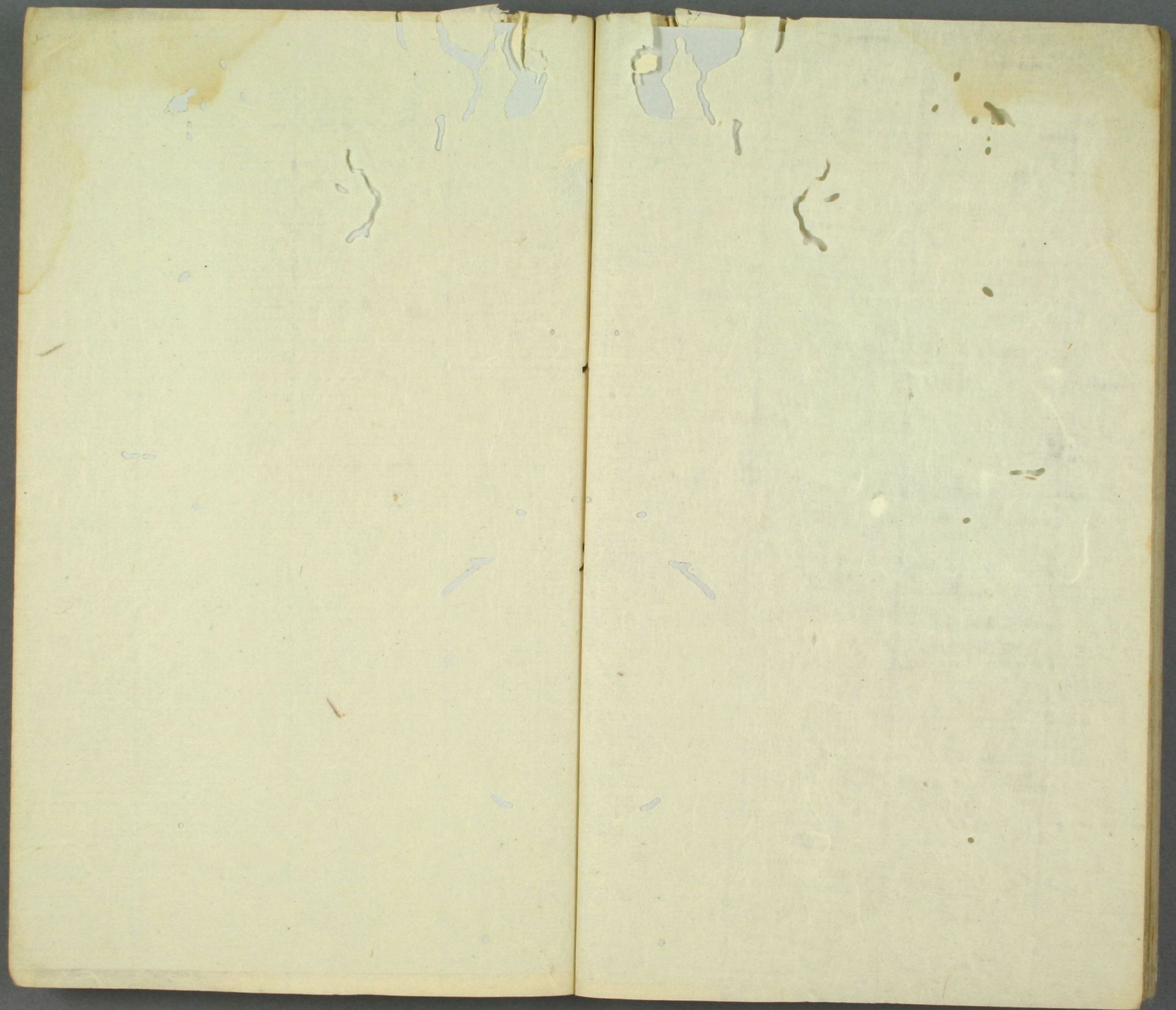
右

あぢかふし物とあふる

亡るる物絶す可し今も後の夜

右

けりあふあひの口持あふるし柳柳りし中程望まざる取巻
乃れお付何事も思ひあふる今も思ふ事大いあふる中あふる
近はあふる少あふる有申言持あふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる



以下全て

白紙

